

賃貸・地域

CFネットのCFビルマネジメント

昭和の漁師街、復活へ

三浦市の公募事業で4月始動

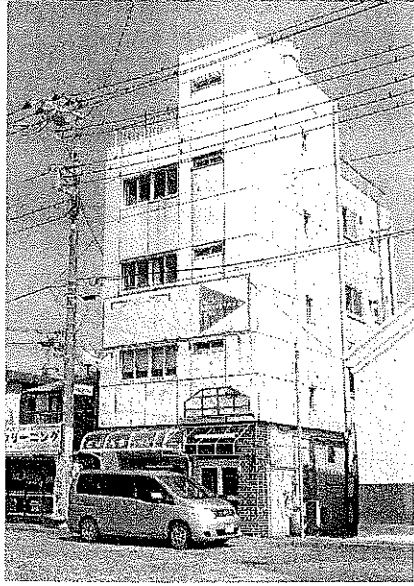
CFネットグループの(株)シー・エフ・ビルマネジメント(神奈川県横浜市、倉橋隆行社長)が提唱した「昭和の漁師街」復活を目指す活性化策が、神奈川県三浦市が策定し

た「下町・城ヶ島地区活性化事業」に基づく公募型の活性化事業に内定し、4月始動する。この事業は、三崎港にある産直センターに集中する観光客を、テーマパーク化する

下町商店街や自然豊かな城ヶ島へと周遊させ、マグロの漁師街でにぎわったかつての「昭和の漁師街」復活を目指す取り組み。約70%が市街化調整区域と



④テーマパーク化が計画されている昭和の面影残す三崎(三浦市)の商店街⑤陶芸家の澤田痴陶人美術館に現在改装中のCFビルマネジメントの社有ビル



なる三浦市は、豊富な自然と昭和の建物が多く残存している。映画やドラマのロケ地としても利用される地域特性を生かしたプロモーションを行ない地域活性化を促す。

主な事業としては、①既存

の建造物を再利用すること
で、低予算で文化の掘り起こしと地域のテーマパーク化に取り組む②観光案内所の機能を持たせた陶芸家の「澤田痴陶人美術館」を出店する③民間の立場から独自制作する観光情報やガイドを無料で発信する④既存の古い建造物やテナントを活用して新規テナント開発、出店協力、商品開発、自社出店、起業斡旋などに取

り組む。

同社によると、「長年培った不動産コンサルティングや実践してきたホテル・飲食事業などの総合的なノウハウを生かした地域活性化プロジェクト」と位置付けている。

同社はまた、市と取り組む活性化事業の広報を目的に、吉田英男・三浦市長、木村けんぞう・県議会議員、倉橋社長による「今後の三崎・城ヶ島の将来」と題した無料講演会を4月17日に、三崎フィッシュアリーナ・ウォーフ「つらり」(三浦市三崎5丁目)で開催するの続き、会場を移して情報交流会も予定している。